

お忙しくても、約 2 分間で読めます

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

報いを求めず積み上げていく 伊與田 覺 (論語普及会学監)

1. 会社など、組織では「人材」「人財」という言葉が用いられ、才能があり、大いなる働きをする人のことを意味します。これに対して「人物」という言葉もあります。「あの人は人物だ」という時、これは単に才能のある人をいうのではありません。才能と徳を併せ持った人、才能もあるけれども徳のほうが勝っている人を指します。
2. 中国古典の「大学」に「徳は本なり、財は末なり」という言葉があります。道はもともと天地宇宙のルールを表します。そのルールを人が素直に受け入れ、実行した時に、その道は徳になるのです。財という字の「貝」はもともと貨幣の代わりに使われていました。これに「才」がついて財となりますが、「才」には働きという意味とともに「わずか」という意味もあります、つまり財というものは全体からするとわずかな存在であり、本来でいえばあくまでも徳が本なのです。
3. 腹に一物あっては、いくら善を積んでも本当の徳は備わりません。徳がなくなればせつかくつくったものも失われてしまいます。報いを求めずに積み上げていくものこそが、本当の徳につながることを心しなければならぬと思います。

(参考:「致知」2011年11月号)

## 経営者のための理念・哲学

渋沢栄一と新渡戸稲造の言葉

松沢 幸一 (キリンビール社長)

1. 明治 22 年、キリンビールの前身であるジャパン・ブルワリーの日本人重役として渋沢栄一が 4 年間ほど務めている。渋沢は名著「論語と算盤」で、「大きな自然的逆境におかれることは天命であり自分の本分であると覚悟し、弛ませ屈せず勉強するのが良い」と教えている。さらに「社会というものがなければ、一人で富むわけには行かない。恩恵を受けた社会を放っておいて、われ一人富んでよろしいという理屈は、ちと勝手な申し分だと思う」と語る。
2. まさに、今日の CSR (企業の社会的責任) に通ずる、経営者やリーダーが心すべき言葉である。また「武士道」を著した新渡戸稲造は、「自分の良心と信念に従い、誠をもって自然の理にかなったように実践することの大切さ」を説いている。

(参考:「文藝春秋」:2011年11月特別号)

## 経営者のための経済学

脱工業化社会のアメリカ

野口 悠紀雄 (早稲田大学院ファイナンス総合研究所顧問)

1. 2009 年におけるアメリカの GDP の産業別構成比は、製造業 11.2%、卸売り・小売り 11.3%、金融・不動産 21.1%、その他のサービス 26.6% (うち、専門的サービス 12.1%) などとなっている。このように、アメリカの GDP の 3 分の 1 は、金融・不動産、専門的サービスによって生み出されている。その半面で、製造業は 1 割程度の比重しか占めていない。
2. つまり、アメリカにおける最重要の産業は金融や保険であって、製造業ではないのだ。製造業の比重は、卸売し・小売りと同程度でしかない。企業利益で見ても、金融が大きな比重を占めている。アメリカは脱工業化社会を実現しているのである。

(参考:「週刊東洋経済」2011年8月27日号)

## 古典に学ぶ

自分で箸を持つ

「かくお膳立をして待っているのだが、これを食べるか否かは箸を取る人のいかんであるので、御馳走の献立をした上で、これを養ってやるほど先輩や世の中というものは暇ではない」

現代の言葉でいうと、「誰かが料理を作ってくれたとしても、それを実際に食べるかどうかは、自分次第。ご馳走を用意して、さらにそれを食べさせてくれるほど先輩も世の中も暇ではない」。

(参考: 渋澤健「渋沢栄一 100 の訓言」: 日経ビジネス人文庫)